

特集 東日本大震災

2011年3月11日に発生した、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震により、建物の倒壊、火災、津波に加え東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質漏れや、大規模停電など、東日本を中心に甚大な被害がもたらされた。死者・行方不明は約2万人に及び（2011年9月時点）、戦後最大の大惨事となった。

以下は、東日本大震災の概要、報道内容、各メディアの対応、関連番組、各部局の取り組みなどNHKが総力を挙げた取り組みと内外からの反響などを記録した。

『NHK年鑑2011』編集中の9月時点においても、福島第一原子力発電所の事故がいまだ収束せず、避難生活を余儀なくされている方がなお7万人を超えるなど、震災は継続している。特集では、2011年3月末までを中心に記述したが項目により4月以降の内容も記録として掲載した。

国内の観測史上最大の巨大地震

2011年3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源として、国内の観測史上最大のマグニチュード9.0の巨大地震が発生した。気象庁などの分析では、震源域は東北の沖合から関東沿岸にかけてほぼ南北に450キロ、東西200キロに及び、余震活動は南北500キロの範囲で頻発した。宮城県栗原市で震度7の非常に激しい揺れが観測され、北日本と東日本の広い範囲で震度5弱以上の強い揺れが観測された。三陸沿岸などでは津波が地震発生とほぼ同時に「引き波」として発生し、大津波は約30分後から1時間後にかけて東北や関東の沿岸に到達した。専門家などの調査では、津波の高さは岩手・宮城・福島の3県の沿岸で10メートル前後に達し、岩手県宮古市重茂姉吉^{むらたのあやみ}では津波が39.7メートルの高さにまで駆け上がった（遡上高）。

国土地理院のGPSによる観測では、本州のほぼ東半分で大規模な地殻変動が起き、宮城県の牡鹿半島が5メートル余り東へ移動したほか、沿岸部の地盤が最大で1メートル余り沈降した。この影響で、余震域だけでなく、長野・新潟県境や静岡県など本州の広い範囲で地震活動が活発化した。

大津波と地震による死者行方不明者は東北3県を中心に約2万人となり、2万1,959人が犠牲となった1896年の「明治三陸地震津波」以来の津波災害となり、近代以降の災害としては、犠牲者が10万人を超えた1923年の「関東大震災」以来の甚大な被害となった。気象庁は発生当日、「平成23年東北地方太平洋沖地震」という地震名を発表し、政府は3週間後の4月1日、「東日本大震災」という災害名を決めた。

今回の巨大地震で、気象庁は東北地方で強い揺れが予測されるという緊急地震速報を発表し、地震発生約3分後に大津波警報を発表した。しかし、わずか数分で巨大地震の規模を推計するには技術的な限界があり、当初発表されたマグニチュードは7.9、津波の予想高さは宮城県沿岸で6メートルにとどまった。被災地では、高さ数十センチの津波の観測値が相次いで伝えられたことが、事態の過小評価を招いたという声も上がっている。このため気象庁は、警報発表時の数値などの表現方法について、見直しに着手している。

政府の地震調査委員会や中央防災会議は、日本海溝周辺での巨大地震の危険性を評価し、被害想定などを取りまとめていたが、いずれもこれほどの巨大地震や大津波は想定していなかった。このため従来の地震・津波の想定手法や防災対策について、抜本的な見直しを進めることにしている。

I. 放送・配信内容

1. 震災報道

地震発生は、11年3月11日午後2時46分ごろ。国会中継中に緊急地震速報が入った。NHKでは、直ちに通常放送を全て中止し、総合、教育、衛星第1、衛星第2、衛星ハイビジョン、ラジオ第1、ラジオ第2の全ての放送波で、緊急報道に切り替え、24時間体制で報道を続けた。

地震発生直後は、海岸線沿いに設置された多数のリモコンカメラを駆使、潮位の高まりや、津波が押し寄せる様子をリアルタイムで伝える一方、住民に急いで高台に避難するよう呼びかけた。津波に襲われる前の仙台空港から飛び立つことができたNHKのヘリコプターが、押し寄せる津波の

様子を撮影。想像を絶する災害のすさまじさを生中継で伝えた。

米ABC、英BBC、中東アルジャジーラは、地震発生直後から、NHKワールドの放送映像をそのまま同時放送。NHKの震災報道は、全世界に被害の実態を伝えることになった。

取材・制作にあたっては、発生直後から全国から応援を送り込んだ。仙台局、福島局、盛岡局などに合わせて400人を超えるスタッフが現地入り、東北の太平洋全体に広がった被災地を取材するとともに、ニュース・番組の制作にあたった。

放送では、被害の実態を伝えるとともに、被災者の為の放送を心がけた。3県で10か所以上に中継を展開。避難所の様子や被災者の要望を生放送で伝え続けた。『ニュースウオッチ9』では、被災者や被災自治体の担当者と電話をつなぎ、今何が必要なのかを直接聞き出すことに取り組んだ。孤立した高齢者福祉施設の人たちが、放送をきっかけに救助されたケースもあった。『あさイチ』では、メールやFAXを駆使して、被災者からの質問・要望を募り、それにきめ細かく丁寧に答えていった。発生直後からL字画面を駆使し、生活関連情報など被災者に向けた情報を伝え続けた。

仙台局、福島局、盛岡局など被災地の放送局では、ローカル放送を強化。全国放送が一部通常放送に戻ってからも、独自に被災者に向けた放送を続けた。「被災地からの声」では、避難所を回り、被災者の要望や家族や知人に向けた伝言などを語ってもらった。「東北ライフライン情報」では、被災者に向けた生活情報を、「いま被災者に伝えたい」では、医師、精神科医、トレーナー、助産婦などの専門家をスタジオに招き、健康管理の方法など、避難生活をおくる被災者に役立つ情報を伝えた。L字放送についても各局で独自に実施。地域の実情やニーズに合わせて、よりきめ細やかな情報を発信した。

『NHKスペシャル』や『クローズアップ現代』では、情報をせき止め、その意味合いを掘り下げて伝えた。被害の全体像や地震や津波のメカニズム、ガソリンや食料、医療品が届かない実態と背景など被災者や視聴者の関心の高いテーマを取り上げ、課題解決の糸口を探った。『NHKスペシャル』は、地震発生の2日後、10日後、2週間後に放送。『クローズアップ現代』も、発生10日後の放送再開以降、43分に拡大して放送を続けた。

震災報道にあたっては、障害者に向けた放送の充実にも取り組んだ。字幕のための専門のオペレーター確保、自動的に音声を認識して文字化する

装置の一部活用により、ニュース番組に字幕を付与。その結果、被災後僅か1週間で、通常の週のおよそ2倍にあたる40時間で字幕を付与した。手話ニュースも通常1日1～2回の放送を4回に増やした。福祉番組『福祉ネットワーク』を字幕・手話そして、目の不自由な人のために画面の流れを解説する“解説放送”付きで放送した。

2. 福島第一原子力発電所事故報道

11年3月11日午後2時46分、震度6強の揺れが東京電力福島第一原子力発電所を襲った。運転中だった1号機から3号機の原子炉は直ちに自動停止。電源は非常用発電機に切り替わり、中央制御室では、緊急時の操作を始めた。ところが1時間後の午後3時40分、中央制御室の照明や表示灯が突然消える。高さ12メートルの津波に襲われ、非常用発電機が水没した瞬間だった。

全電源喪失。日本の原発が経験する初めての事態だった。電源を失ったことで、中央制御室では原子炉を冷やす注水状況が把握できなくなる。午後7時すぎ、政府は、1号機と2号機で原子炉を安定して冷却できなくなったとして、初めての「原子力緊急事態」を宣言。午後9時23分に福島第一原発の半径3キロ圏内に避難指示を出した。会見で、枝野官房長官は「放射性物質による外部の影響は今のところ確認されていない」と述べている。しかし、このときすでに1号機の原子炉は深刻な事態に陥っていた。経済産業省の原子力安全・保安院が後に発表した解析によると、1号機の原子炉は午後5時頃には、水位の減少で核燃料が露出。午後6時には炉心損傷が始まり、午後8時には核燃料が溶け落ちるメルトダウンが起きていたとみられている。全電源喪失からわずか4時間後のことだった。

夜から朝にかけて東京電力と政府は、電源を回復し、原子炉を冷やそうと奔走。各地から電源車を福島第一原発に集めるとともに、消防車による注水を試みた。しかし、津波で運ばれたがれきの散乱や配電盤の水没で作業は難航。さらに1号機の格納容器の圧力が急上昇していたことから、12日午前3時、東京電力と政府は、格納容器の気体を放出して圧力を下げる「ベント」を行うことを発表。しかし、この作業も原子炉建屋の高い放射線量などに阻まれて難航し、結局、ベントが行われたのは、半日後の午後2時半だった。

その1時間後の午後3時36分、1号機が爆発。原子炉から漏れ出た水素が原子炉建屋上部にたまり、酸素と反応して爆発したのだ。日本の原子力

震災報道を開始し、被災地周辺のロボットカメラ映像やヘリの中継映像などを使用し、津波の状況をリアルタイムに伝えた（写真1）。放送では避難所からの中継や電話リポート、記者解説などを交え、3月13日10時までの約43時間、ニュースセンターから連続で送出した。



写真1 ロボットカメラの映像（宮古）

○技術面の主な工夫

国民の関心が高かった福島第一原発の放水作業は、避難指示により20キロ圏内での中継が困難であったため、30km以上離れた地点から取材ヘリの防振カメラでその様子を撮影した（写真2）。



写真2 取材ヘリの防振カメラ

カメラには高倍率のレンズが装着されており、遠方からでも十分な大きさで捉えることが可能であり、さらに、放送センター側で画像の揺れを抑え、鮮明化する処理を施すことによって、高画質の映像で放送した（写真3）。



写真3 福島第一原発の空撮映像

予断を許さない、福島第一原発の状況を定点から監視するため、現場を見渡すことができる遠方の中継放送所に超高感度カメラを設置し、24時間の無人監視を行った（写真4）。



写真4 超高感度監視カメラ

カメラの映像はFPUを用いた多段中継によって、放送センターまで伝送し、ヘリ映像と同様、鮮明化処理を行った上で、放送に使用した（写真5）。



写真5 福島第一原発監視カメラの映像

4. NHK各メディアの対応

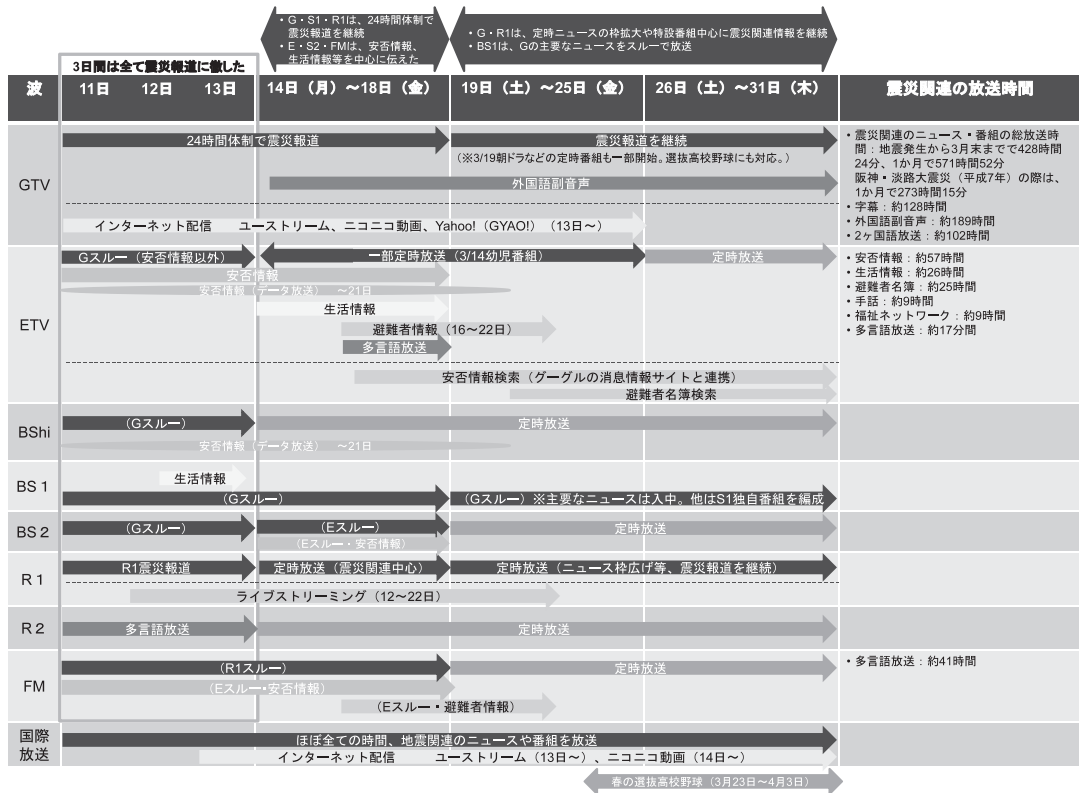
NHKは地震発生直後の午後2時46分50秒、全8波で緊急地震速報を伝え、午後2時48分17秒からは国会中継などを中断して地震発生と大津波警報発表を伝えた。さらに、午後2時50分からはラジオ第2と総合、BS1、BS2、HVの副音声で、在日外国人に向けて英語、中国語、韓国朝鮮語、

ポルトガル語による多言語放送を実施。午後6時45分からは教育、FMで安否放送を始めた。

翌12日（土）からは生活関連情報、手話ニュースも放送するなど通常編成を大幅に変更して震災報道を継続した。

また、テレビやラジオに接することができない環境でもNHKの情報を入手できるように、放送のインターネットへの同時配信も実施した。

東日本大震災対応（概要）



5. 安否情報・避難者情報

(1) 実施内容

災害時に個人の安否について放送する『安否情報放送』。今回、NHKは、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震以来となる「安否情報放送」を実施した。放送は、発生当日の3月11日午後6時45分から始め、18日まで、合わせて52時間余り、教育（データ放送含む）・FM・衛星第2で放送を続けた。

安否の情報は、放送センター736会議室と東京・大阪のふれあいセンターで電話受付をした。この情報を、本部放送センター436会議室でチェック・整理し、放送用画面を自動作成した。同会

議室内には、ブースが設けられ、アナウンサーが入って情報を読み上げた。その後、511スタジオに拠点を移し、18日まで、およそ1万件の安否情報を放送した。

寄せられた情報は、初動からNHKオンラインでも検索できるようにする計画だったが、NHKオンライン自体に、予想をはるかに上回るアクセスが集中したため、当初は、ネットでの安否検索サービスを見合わせた。その後、16日に、「Google」のパーソンファインダーと連携することになり、データを「Google」に送付してインターネット・携帯で検索できるようにした。また、NTTレゾナントの「goo」にも情報を提供し「goo」のホームページで検索できるようにした。

また、今回は被災地の各県がまとめた「避難者名簿」を放送するとともに、NHKオンラインで検索できるサービスも実施した。放送は、16日から22日まで、延べ27時間余りにのぼった。放送は、各県のデータをNHKが整理して、そのデータを印刷した紙をボードに留め、その紙を映しながら、名簿を読み上げる形で実施した。19日からは、検索サービスが稼働し、避難者の名前を打ち込めば、どの避難所にいるのか検索できるようになった。被災地から他の都道府県に避難した人の検索も可能で、各県の避難者情報を一括して検索できる利便性の高いサービスとなった。

安否情報・避難者情報ともに検索サービスは、震災2か月の5月11日まで実施した。

(2) 課題と今後の展開

安否情報の根本的な課題に、「被災地外からの情報ばかりで、肝心の被災地の情報が入ってこない」という点がある。今回も、当初は被災地外からの電話が多かったため、放送内で「被災地外からの電話をご遠慮いただきたい」旨を呼びかけるとともに、被災地の各県からの情報を優先して放送・掲載した。岩手・宮城・福島の3県からの情報は、地震発生日は僅か70件ほどだったが、徐々に増え、最終的にはおよそ5,700件にのぼった。しかし、大津波の被害を受けた地域は、そもそも通信が途絶えており、本当に大きな被害を受けた地域の安否情報はなかなか伝えられなかった。

また、従来型の映像・音声による放送サービスは、延々視聴し続けると情報が確認できないという構造的な問題があった。これに比べ、今回、実施したインターネットによる検索サービスは、登録された情報を直ちに探すことができ、その優位性が明確に示される結果となった。特に、外部のIT・通信会社との連携による、オールジャパンに近い形の検索サービスは、今後のスタンダードとなりうるものであり、その意味では、災害時の安否情報提供の大きな転換点ともなった。

6. 公開ホームページ (NHKオンライン)

(1) トップページの変更

東日本大震災発生直後にNHKオンライン・NHKケータイともに災害情報をすぐに見られるようにし、サーバーの負荷を軽減するためトップページの構成を大幅に入れ替えた「震災モード」に切り替えて運用した。

(2) ライブストリーミング

総合テレビのライブストリーミングを実施。Ustreamに提供し、ニコニコ生放送とヤフーについては、無償BtoBという枠組みで実施を許諾した。3月11日から25日までで合わせて、3,630万回視聴された。

ラジオ第1放送のライブストリーミングを3月11日から21日の間にパソコン向け、3月16日から21日の間にiPhone向けに配信し、最大同時聴取数はパソコン向け約4,600件、iPhone向け約2,000件だった。

(3) 新システムの構築

編成局で実施した安否放送で集めた情報を「Google」と連携して検索できるような枠組み作りを行った。また、岩手、宮城、福島の各県が提供する避難所にいる人の名簿をNHKのホームページで検索できるようシステム開発を行った。

(4) 地方支援

地震発生後、直ちに仙台局に応援要員を送り、データ放送およびインターネットで緊急報道や被災者支援情報・生活情報を制作・送出するとともに域内各局の支援を行った。また、発生直後には、14局の災害情報ページの立ち上げを公開ホームページ事務局で代行した。その後2週間、福島、盛岡局の災害ページの更新を引き続き代行した。同時に、福島・盛岡局の県域ラジオの生活情報をインターネットで提供するための仕組みと体制を整備した。さらに、東北各局の生活情報を伝えるサイトを構築した。

(5) システム運用

地震発生直後はインターネットニュースや災害関連ページに想定を超えるアクセス集中により配信サーバーの過負荷に陥ったが、コンテンツ修正や配信方法変更を継続的に行いサービスの継続提供を維持した。

(6) アクセステータ

3月11日～31日の21日間でNHKオンライン1,388万ページビュー、NHKケータイ183万ページビュー。

3月14日から、宮城・岩手・福島・青森のパソコン向け各地のニュースを自動変換してNHKケータイでも提供。18日間で36万ページビュー。

3月19日からはNHKオンラインで避難所名簿検索サービスの提供を開始、12日間で245万ページビュー。

7. 視聴者からの反響

3月11日の地震発生から3月31日までの3週間に視聴者から寄せられた震災関連の反響は、6万2,324件となっている（安否情報・避難者情報の問い合わせ専用窓口への声を除く）。発生の翌日から1週間は、連日3,000件を超える反響が寄せられ、16日が最も多く1日で6,000件を超えた。それ以降、次第に減ったが、24日までは、放送関係に寄せられるすべての反響のうち、半数以上を震災関連が占めた。

震災に寄せられた声を、内容別に分類すると、最も多いのは、番組予定の問い合わせや要望で、震災報道で年度末から新年度にかけての番組編成が大きく変わったこともあって、3万2,000件余りにのぼった。

次に、「原発」に関する声がおおよそ2万件、計画停電には、6,000件余りの声が寄せられた。

このほか、義援金やボランティア、物資の提供についての反響がおおよそ3,600件、安否情報、避難者情報などへの反響がおおよそ3,200件、政府や東京電力、原子力安全・保安院などの記者会見についての反響がおおよそ2,000件などとなっている。

4月以降は、番組のほとんどが通常編成に戻ったため、震災関連の声は減っているが、4月全体ではおおよそ2万5,000件にのぼり、引き続き、原発関係の声が多くなっている。

II. 被災者への支援活動

1. 受信対策

避難所での生活を余儀なくされている被災者の人々に、放送受信を確保し、放送を通じて災害や生活情報などの必要な情報が得られるように、3月12日から、岩手県、宮城県、福島県を中心に避難所を訪問して現地調査を行うとともに、受信機メーカーから提供を受けたテレビの設置活動を開始した。

設置にあたっては、避難所の所在や既設テレビの有無、電源の有無など、事前の状況把握が必要だが、かつてない規模の震災であったため、避難所が広範囲に点在し、避難所へ通じる道路が不通な場合も多くあった。当初、1県あたり毎日、3～5クルー体制で、ガソリンを確保しつつ、受信対策を進めていったが、停電の復旧や道路事情の回復などがみられた3月下旬には、10クルー程度に体制を強化することができ、避難所受信対策が

進捗した。

3月末時点で、岩手県、宮城県および福島県を中心に、318か所の避難所に合計で392台のテレビを設置した。さらに、停電した避難所でも情報を入手できるようにするため、経済産業省から提供を受けたラジオ受信機8,431台を配布した。

また、受信対策にあわせて、被災した人々の安否情報を放送などで伝えるための情報収集手段の一つとして、3月16日からは「避難者伝言ポスト（安否伝言ポスト）」を避難所に設置した。

2. 営業対策

今回の大震災における受信料の免除については、被害の大きさを総合的に勘案し、災害救助法の適用地域において、半壊、半焼又は床上浸水以上という従来の対象に加え、災害対策基本法に基づく避難勧告を1か月以上にわたり受けた人などを対象とした。そのうえで、免除期間についても通常の2か月間を8か月間に延長し実施することとした（11年8月30日発表）。また、被害が甚大だと想定される一部の地域については、11年4月の引き落としなどの請求をいったん延期し、そのうえで、自治体の協力を得て免除の対象となる人や世帯がなくなった人などを特定し、必要な手続きを行っている。

今回の大震災はこれまでに例のない大規模な災害であり、受信料の請求や契約に関する手続きなどの運用については、できる限り被災された人に負担をかけることのないよう柔軟に対応していく方針としている。

3. 義援金活動

NHKでは、3月14日から被災された人々に向け、中央共同募金会、日本赤十字社、NHK厚生文化事業団とともに義援金の受付を開始した。受付期間は12年3月31日までで、全国のNHK放送局の窓口などで受け付けている。地震発生から1か月の間にNHKの窓口寄せられた義援金は、2万3,000件あまり、約12億8,200万円となった。

III. 放送施設

1. 被災施設の復旧、放送の確保

東日本大震災は、東北から関東の各地にあるNHKの放送設備に直接、被害を及ぼしたほか、相次ぐ余震と大規模な停電、東京電力福島第一原子力発電所の事故や計画停電の実施が、放送の維持、

継続に極めて困難な状況をもたらした。

東京タワーでは、送信アンテナ取付柱が曲がり、NHKのアナログテレビ放送用送信アンテナの一部に不具合が生じ、画質不良が発生した。このため、3月11日の午後5時15分ごろから送信電力を半分に減力放送（送信出力は通常の4分の1）を開始した。16日には放送を休止し、取付柱の補強を行ったが、アンテナ不具合の改善はできないため、今も（11年6月現在）減力放送を行っている。実際には、電波の強度が多少下がったが、受信に特段の問題は生じていない。

東北地方では、仙台局、郡山支局および一部の放送所の局舎で柱の座屈や壁の損壊、亀裂などが発生し、中継放送所のアンテナ取付柱の折損も発生した。また、地震による大津波で、2つの中継局が流失した（1局は仮復旧）。

特に仙台放送会館は、5階塔屋の損壊が著しく、倒壊の危険があるため、3月15日から応急補強工事を開始し、震度6程度の横揺れに耐えうる対策を行った。

地震発生と同時に大規模な停電が発生し、東北、関東地域の8つの放送会館、テレビおよびラジオの放送所の多数が一時停電した。放送会館や基幹放送所などは、自家発電装置やバッテリーによる非常用電源設備を使って放送を再開したが、その後は、中部・西日本地域からの燃料補給体制を確立して継続的な燃料の確保を行い、放送を維持した。

テレビのデジタルとアナログ中継局では、設備の被災や停電により533の中継局が停波した。余震や停電が相次ぐなか、被害を受けた設備の復旧、停電対策としての仮設発電機や燃料の確保など、NHKと関連団体の総力を挙げて放送確保、電波確保に取り組んだ結果、3月末には、停波中の中継局は19局となった。このほか、原発避難区域にあり、電波状況の確認ができない中継局が1局残っている。

NHK共聴施設は、128施設が被害を受け、そのうち71施設は、施設の大部分が流失した。このうち70施設は、デジタル化工事を終えたものであった。このほか、NHK共聴13施設では3月末に予定していたデジタル化工事を完成できなかった。

東京電力と東北電力が発表した計画停電の対象区域は、東北・関東地方のほか、新潟県、山梨県、静岡県東部にまでおよんだ。実際には、東京電力が、3月14日から28日の間、計画停電を実施した。対象区域の会館や基幹放送所では、万一に備えて予備用仮設発電機を準備しつつ、計画停電の実施

にあわせて自家発電装置の運転を行うなど、停電による停波などを回避したが、自家発電装置などの無い小規模な中継局では、延べ892回停電し、そのうち延べ301回停波した。

4月に入っても余震が続く中、受信アンテナの設置や仮設発電機の設置など、停波中の中継局の電波回復を進めた。この結果、甚大な被害を受け送信エリア全域で個別受信が見込めない地域にある9つの中継局以外は、4月5日までに、電波を回復させることができた。なお、4月7日に起きた震度6強の余震は、青森、岩手、秋田など東北地方の広い範囲で停電を引き起こし、一時は、約220局の放送所に障害が発生した。直ちに自家発電装置用などの燃料確保を図ったが、電力の回復とともに電波も回復した。

4月中旬以降は、大きな被害を受けた地域にも電力が回復していき、これに伴い停波も解消されていった。6月末現在でも停波中の局は、津波で流失したデジタル中継局と、福島第一原発事故の警戒区域にあるラジオ中継局の2局である。未完了であったNHK共聴13施設のデジタル化工事も再開し、津波によって自治体インフラが流失した5施設を除き、工事を完了させた。

2. 東北3県のアナログ放送終了時期の延期

一方、総務省は、岩手、宮城、福島の前3県の甚大な被害を受けた地域では、地上デジタル放送の受信に必要な設備を整備することが困難となっているとして、東北3県のアナログ放送の終了を最長1年延期することとし、6月8日に電波法の特例法が成立し決定した。総務省は、その後7月13日に、東北3県のアナログ放送の延長の期限は12年3月31日とすることを決定した。

デジタル放送に加えてアナログ放送も引き続き送り届けられるよう、放送の確保に努めていくが、中継局の復旧やNHK共聴施設の工事については、今後、地元の復興にあわせて、対応策を検討していく。

3月11日や4月7日などの地震で被害を受けた仙台放送会館は、大型連休中に壁補修などを行ったうえ、12月完成を目途に、6月から塔屋部を3階建てから1階建てに変更する本格的な地震対策工事を開始した。郡山支局についても、倒壊の可能性があった煙突を撤去し、新設した。

IV. 海外関係

1. 海外への発信

外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」では、震災発生直後からほぼ全ての時間にわたり震災特別編成による24時間放送を行った。

毎正時のニュース番組『NEWSLINE』では、主要記者会見やインタビューを同時通訳して生中継したほか、GTVの『おはよう日本』『NHKニュース7』『ニュースウォッチ9』など、国内ニュース番組に同時通訳を付けて生放送した。また、『NHKスペシャル』などの番組も通訳付きで編成し、国内とほぼ同時に情報が伝わるように努めた。

海外では英BBCや米CNNなど、2,000を超える放送局がNHKワールドTVの映像を利用、または、直接放送し、NHKの的確な取材と正確な報道が高く評価されるとともに、生中継映像を使った冷静なレポートも評価された。

ラジオジャパンではニュース枠を拡大し、18言語で日本の状況を伝え続けた。

一方、日本在住の外国人に対するサービスとして、NHKワールドTVの英語音声を中心とした総合TVの副音声に流したほか、国際放送のホームページによる配信に加え、複数の動画共有サイトを通じて、NHKワールドTVをストリーミング配信した。その結果、震災後2週間で視聴数が540万人に達した。

国内のCATV会社に対してもNHKワールドTVの番組を提供した。これにより全国最大174のケーブルTV局を通じ約600万世帯で視聴可能となった。

2. 海外からの反響

(1) 海外メディアの反響

多くの海外メディアは、3月11日の地震発生直後にニュース速報として伝え、その後も連日、津波の被害や被災者の様子、また、東京電力福島第一原子力発電所の事故などについて、詳細に伝えた。

発生直後から、米CNN、米ABC、英BBC、中東アルジャジーラなどの海外メディアは、NHKの許諾を得て、NHKワールドの放送映像をそのまま同時に放送した。このようにNHK映像は、ロイター、APTNの映像通信社などを通じて、把握できただけで2,000を超えるテレビ局や数千の

新聞社に提供された。

また、多くの海外メディアは、東京駐在の特派員に加え、大量の取材陣を日本に派遣した。38か国・74のメディアからは、NHKに取材支援の問い合わせが寄せられた。取材陣は、東京や被災地から生中継やレポートで伝え、中には、ヘリコプターをチャーターして報道するところもあった。多くの海外メディアは、この震災のニュースを分厚く伝えて、ニュースのテレビ視聴率やインターネットへのアクセスが増えたといい、今回の震災への海外視聴者の関心の高さがうかがえた。

(2) NHK災害報道に対する海外メディアの反響

東日本大震災をきっかけに、NHKの災害報道は、海外メディアから高い関心を集め、広報局では、報道局、国際放送局、アナウンス室、解説委員室、ラジオセンターなどと連携し取材に応じた。対応したのは、アメリカのワシントンポスト紙、ブルームバーグ、全イギリスのBBCやモノクル誌、フランス24、韓国のKBS、ソウル新聞、中国のCCTVなど欧米・アジアの主要メディアのほか、テレビ業界の専門誌など、延べ31件に上る（11年3月末現在）。

各メディアの関心は、なぜNHKが地震発生直後から速やかに緊急ニュースを始められたのか、また、なぜ津波や被災地の映像を次々と撮影することができたのか、などに集まった。これに対し、NHKは、公共放送の使命として生命・財産を守る災害報道に力を注いでいること、そのために装備や設備の充実を図っていること、また、数々のマニュアルを整備し、職員が日頃から訓練を行っていることなどを丁寧に説明した。取材の結果、書かれた記事は、NHKの災害への備えは万全で、それゆえに冷静沈着な報道が可能になっている、などNHKの災害報道を評価するものが多かった。

資料編

1. 東日本大震災の概要

【地震の概要】

- ・発生日時 2011年 3月11日 午後2時46分ごろ
- ・震源 三陸沖 深さ24キロ
(牡鹿半島の東南東130キロ付近)
震源域は長さ(南北)450キロ、幅(東西)200キロに及んだ。
- ・規模 Mw 9.0
当初気象庁は、暫定値としてマグニチュード8.8と発表していたが、既存の気象庁マグニチュードでは巨大地震の規模を正確に表せない。このため海外の観測点のデータなどを詳細に解析した結果、3月13日にMw(モーメントマグニチュード)9.0に修正した。

・各地の震度

- 震度7 宮城県北部
- 震度6強 宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
- 震度6弱 岩手県沿岸南部・内陸北部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部
- 震度5強 青森県三八上北・下北、岩手県沿岸北部、秋田県沿岸南部・内陸南部、山形県村山・置賜、群馬県北部、埼玉県北部、千葉県北東部・南部、東京都23区・新島、神奈川県東部・西部、山梨県中部・西部・東部・富士五湖

【主な余震】

- ・茨城県沖の地震(3月11日午後3時15分)
震源：茨城県沖 深さ43キロメートル
規模：マグニチュード7.7
最大震度 6強
- ・宮城県沖の地震(4月7日午後11時32分)
震源：宮城県沖 深さ66キロメートル
規模：マグニチュード7.1
最大震度 6強
- ・福島県浜通りの地震(4月11日午後5時16分)
震源：福島県浜通り 深さ6キロメートル
規模：マグニチュード7.0

最大震度 6弱

- ・福島県中通りの地震(4月12日午後2時7分)
震源：福島県中通り 深さ15キロメートル
規模：マグニチュード6.4
最大震度 6弱

【主な誘発地震】

- ・長野県北部の地震(3月12日午前3時59分)
震源：長野県北部 深さ8キロメートル
規模：マグニチュード6.7
最大震度 6強
- ・静岡県東部の地震(3月15日午後10時31分)
震源：静岡県東部 深さ14キロメートル
規模：マグニチュード6.4
最大震度 6強

【津波】

- ・津波(最大波)の高さと観測時刻
北海道えりも町 3.5メートル (15時44分)
岩手県宮古港 8.5メートル以上 (15時26分)
岩手県大船渡港 8.0メートル以上 (15時18分)
岩手県釜石港 4.2メートル以上 (15時21分)
宮城県石巻市鮎川8.6メートル以上 (15時26分)
福島県相馬港 9.3メートル以上 (15時51分)
茨城県大洗港 4.1メートル (16時52分)
- ・確認された津波の最大遡上高(土木学会調べ)
岩手県宮古市重茂姉吉 39.7メートル
- ・津波による浸水面積(国土地理院調べ)
561平方キロメートル
(東京23区の面積の90%に相当)

2. 東日本大震災の被害状況(2011年9月20日現在・政府緊急対策本部資料による)

【人的被害】

- ・死者 1万5,799人
- ・行方不明 4,053人
- ・負傷者 5,927人

【避難者数】

- ・ 7万4,900人
- ・(最多・3月14日) 47万人

【建築物被害】

- ・全壊 11万7,410棟
- ・半壊 17万6,583棟
- ・一部破損 58万7,863棟

【火災】(総務省消防庁、警察庁まとめ)

- ・火災 287件
- ・全・半焼 284棟

【道路・鉄道被害】(国土交通省まとめ)

- ・道路損壊による通行止め 高速道路15路線
国道171区間 県道等 540区間
- ・鉄道運転休止 22事業者64路線

【河川・海岸施設】(国土交通省まとめ)

- ・河川の堤防崩壊・ひびわれなど 3,575か所
- ・海岸堤防全・半壊 190キロメートル
岩手・宮城・福島3県の海岸堤防の3分の2に相当

【ライフライン被害】

- ・電気(停電) 891万戸(延べ)
- ・ガス供給停止 48万戸(延べ)
- ・水道(断水) 220万戸
- ・固定電話停止 100万回線
- ・携帯電話基地局停波 1万4,800か所

【被害額】(内閣府まとめ)

- 総計 16兆9千億円
- ・建築物等(住宅, 店舗, 事務所など) 10兆4千億円
- ・ライフライン施設 1兆3千億円
- ・社会基盤施設(河川, 道路, 港湾など) 2兆2千億円
- ・農林水産関係(農地, 水産関係施設など) 1兆9千億円
- ・その他(学校, 病院, 公共施設など) 1兆1千億円

※特に注記のないものは、「平成23年度防災白書」による。3月11日の東北太平洋沖地震のほか

宮城県沖を震源とする地震(4月7日), 福島県浜通りを震源とする地震(4月11・12日)による被害を含む。

3. 過去の震災(明治以降, 死者1,000人以上)

年	名称	規模	被害状況
1891年	濃尾地震	M8.0	死者7,273人, 建物全壊14万棟以上。
1896年	明治三陸地震津波	M8.2	北海道から東北沿岸に大津波。死者2万1,959人, 建物流失・全半壊1万棟以上。
1923年	関東大震災	M7.9	地震後発生した火災で被害が拡大。死者・行方不明10万人以上。建物全半壊25万棟以上, 焼失44万棟以上。
1927年	北丹後地震	M7.3	死者2,925人, 建物全壊1万2,584棟。
1933年	昭和三陸地震津波	M8.1	東北沿岸に大津波。死者・行方不明3,064人, 建物流失4,034棟。
1943年	鳥取地震	M7.2	死者1,083人, 建物全半壊1万4,243棟。
1944年	東南海地震	M7.9	東海沿岸に大津波。死者・行方不明1,223人, 建物全半壊5万4,119棟, 流失3,129棟。
1945年	三河地震	M6.8	死者2,306人, 建物全半壊2万3,776人。
1946年	南海地震	M8.0	四国・東海沿岸に大津波。死者1,330人, 建物全半壊5万4,119棟, 流失3,129棟。
1948年	福井地震	M7.1	死者3,769人, 建物全半壊4万7,999棟。
1995年	阪神・淡路大震災	M7.3	死者6,434人, 不明3人, 建物全半壊24万棟以上, 全半焼6,000棟以上。
2011年	東日本大震災	M9.0	死者1万5,799人, 不明4,053人, 建物全半壊29万3,993棟, 建物全半焼284棟。

4. 発生後9日間(※)の主な動き

※『連続テレビ小説』『てっぱん』が定時に戻るまで

	震災関連動向		放送		放送外サービス	
3.11(金)	地震発生 震度7:宮城県栗原市 M7.9のち9.0に修正	14:46	緊急地震速報 全8波			
	大津波警報発表	14:48	ニュース 全8波			
		14:49				
			14:50	多言語放送開始(R2) (G・HV・BS1・BS2の副音声も)		
			15:08	ニュースへの字幕付与開始	15:40ごろ	NHKオンラインのトップページを災害対応バージョンに変更
			18:45	安否情報開始(E・FM)	19:00前	「ニコニコ動画」でGTV配信開始
	福島第一原発1号機 「原子力緊急事態」宣言	19:30				
	福島第一原発 半径3キロ圏 避難指示 10キロ圏 屋内退避	21:23		21:30	「Ustream」でGTV配信開始	
				23:30ごろ	ツイッターによる情報発信(広報局, 科学文化部, 生活情報部など適宜実施) NHKオンラインでR1配信開始	

	震災関連動向		放送		放送外サービス
3.12 (土)	福島第一原発1号機 圧力上昇 空気放出へ 新潟県中越で地震 震度6強：長野県栄村M6.7 都内帰宅困難者は9万4,000人 (出稿) 福島第一原発 避難指示 半径10キロに拡大 海江田経産相 1号機容器内の空気放出を命令 福島第一原発1号機 格納容器内の空気放出開始 福島第二原発 「原子力非常事態」宣言 半径3キロ圏 避難指示 10キロ圏 屋内退避 福島第一原発1号機 水素爆発 福島第二原発 避難指示 半径10キロ圏に拡大 福島第一原発 避難指示 半径20キロ圏に拡大 大津波警報→津波警報へ	0:49 3:59 6:29 7:00台 9:00 10:00 11:40 16:00 16:20 17:45 19:52 20:20	手話ニュース開始 (E) 生活情報開始 (S1)	ネットなどで「コスモ石油爆発による有害物質を含む雨が降る」などとする誤った情報が出回る→NHKも火消し・適宜実施	
3.13 (日)	津波警報→津波注意報へ 福島第一原発3号機 水素発生か 津波注意報すべて解除 (出稿) 菅首相、東電の計画停電を了承	7:30 8:00 9:00 15:30 17:58 19:56 20:30	R2定時編成に戻る 日曜討論 「東北地方太平洋沖地震 政治の対応を問う」 NHKスペシャル 「緊急報告 東北地方太平洋沖地震」	0:04 0:30 「Yahoo! Japan」でGTV配信開始 「Ustream」でNHKワールドTV配信開始	
3.14 (月)	東電 計画停電実施を見送り 福島第一原発3号機 水素爆発 福島第一原発2号機 「15条通報」 株価大引け 1万円割れ 東電 計画停電実施 福島第一原発2号機 炉心溶融の可能性	5:00 6:00 6:20 7:00 8:00 11:00 13:38 15:00 17:00 20:01	R1 定時放送開始 (震災中心) HV 定時放送開始 BS2 Eスルー開始 BS1 Gスルー継続 E 生活情報開始 (BS1→E) R2 定時放送開始 E 幼児番組開始 (朝・夕方) G「あさイチ」放送再開	18:35 19:30 23:05 NHKオンラインのトップページ 「義援金」「イベント」を追加 青森・盛岡・仙台・福島 ケータイニュースを配信開始 「ニコニコ動画」でNHKワールドTV配信開始 「Yahoo! Japan」でETV安否情報・生活情報の配信開始	

特集 東日本大震災

	震災関連動向		放送		放送外サービス
3.15 (火)		0:00	E 停波、BS2放送休止 (15日～19日の間) (~5:00)		ネットなどで「ヨウ素を含んだ市薬のうがい薬を飲むとよい」などの誤った情報が出回る→NHKも火消し・適宜実施
	福島第一原発2号機「爆発音」	6:14			
	東京電力 計画停電を開始	6:20			
	福島第一原発2号機「圧力抑制室」で衝撃	8:00	G 「あさいチ」休止(原発N)		
	福島第一原発 正門付近で8.217マイクロシーベルト	8:31			
	福島第一原発4号機 火災 水素爆発か	9:30過ぎ			
	福島第一原発3号機 付近で400ミリシーベルト	10:22			
	福島第一原発 半径20～30キロ圏屋内退避	11:00	G 副音声で英語による震災情報提供 (NHKワールドTV音声) (BS1スルー)		
東北電力 16日から3日間「計画停電」実施を発表	11:30				
静岡東部で地震 震度6強：静岡県富士宮市	22:31				
3.16 (水)	福島第一原発4号機 再び火災	5:45			15:45 NHKオンラインのトップページに「NHKの震災対応」を追加 NHKオンラインのトップページに「Google Person Finder」を追加 (NHKの安否情報と連携)
	東京電力 計画停電開始 東北電力 計画停電実施を見送り	6:20			
	福島第一原発3号機から水蒸気	8:15 8:30	G あさいチ「地震関連情報」		
	福島第一原発 正門付近の放射線量が急激に上昇	10:00			
	(出稿) 東北電力 午後と明日の計画停電見送り	14:30			
	天皇が被災者にメッセージ	16:30 20:00	G 「緊急報告 福島原発」		
		21:00	E 避難者名簿の放送開始 (BS2・FMスルー)		
3.17 (木)	(出稿) 円相場史上最高値	5:57			
	(出稿) 円相場76円台突入	6:24			
	東京電力 計画停電開始	7:00			
	福島第一原発3号機 自衛隊ヘリによる放水開始	8:15 9:48	G あさいチ「地震関連情報」		
	(出稿) 海江田経産相、大規模停電回避協力呼びかけ	16:16			
	(出稿) 国交省首都圏鉄道に運行本数削減要請	16:23			
	福島第一原発3号機 自衛隊が地上から放水開始	19:35			
3.18 (金)	東京電力 計画停電開始	6:20			24:00 「Yahoo! Japan」でETV安否情報・生活情報の配信終了
	日欧米G7 協調介入開始 円安へ	8:15 9:00	G あさいチ「地震関連情報」		
	(出稿) 福島第一原発3号機 自衛隊が地上から放水開始	14:00			
	保安員 事故の国際評価をレベル5に引き上げ	18:00前			
		19:30	E 安否情報終了 (BS2・FMスルー) E 多言語放送終了		

	震災関連動向		放送		放送外サービス
3.19 (土)	福島第一原発3号機 東京消防庁が放水開始	0:30			
		7:00	FM 定時放送開始		
		8:00	G 朝ドラ「てっぺん」再開		
		8:16	G ニュース深読み 「東北関東大震災 わたしたちに何が できるのか」		
	(出稿) 福島第一原発5・6号機 冷却可能に	11:09			
	福島第一原発3号機 東京消防庁が7時間連続放水開始	14:10			
	(出稿) 減乳, ほうれん草から基 準超え放射線量	16:58			
	福島第一原発 (出稿) 放水により放射線量低下	23:00			
			夜		NHKオンラインで、盛岡局動画ニ ュースを配信開始
			23:46		避難者名簿検索サービス開始

5. 主な震災関連番組 (11.3.11~3.31)

総合テレビ

- 3.13 『日曜討論～東北地方太平洋沖地震 政治の対応を問う』
- 3.13 『NHKスペシャル～緊急報告 東北関東大震災』
- 3.14, 16～18, 21～23
『あさイチ～地震関連情報』
- 3.16 『緊急報告 福島原発』
- 3.19 『ニュース 深読み～東北関東大震災 わたしたちに何が
できるのか』
- 3.20 『日曜討論～東北関東大震災 いま何が
必要か』
- 3.20 『NHKスペシャル～東北関東大震災から10
日』
- 3.21～25, 28～31 『被災者 いま訴えたいこと』
- 3.21～24, 26, 28～31
『歌でつなごう～被災者のみなさんへ』
- 3.21 『クローズアップ現代～“命の情報”が
入らない』
- 3.21 『時論公論～被災者の支援は』
- 3.22 『クローズアップ現代～被災者に届け 支
援物資』
- 3.22 『時論公論～全国で支えよう』
- 3.23 『クローズアップ現代～被災地に“希望”
をさがす～釜石ドキュメント』
- 3.23 『時論公論～食品の出荷制限』
- 3.24～25, 28 『あさイチ～東北関東大震災関連』
- 3.24 『クローズアップ現代～原発事故 広がる
波紋』
- 3.24 『時論公論～物流ルート確保』
- 3.25 『首都圏でいま何が～東北関東大震災から2
週間』
- 3.25 『時論公論～復興に財政出動』
- 3.26 『ニュース 深読み～東北関東大震災 被
災地は今…』
- 3.27 『日曜討論～(第1部) 福島原発事故 政
府の対応を問う, (第2部) 東北関東大震
災 支援・復興に何が
必要か』
- 3.27 『特集・双方向解説～未曾有の事態にどう
対応するか』
- 3.27 『NHKスペシャル～最新報告 “命”の物資
を被災地へ』
- 3.28 『視点・論点～放射能と人体への影響』
- 3.28 『クローズアップ現代～被災自治体を救え
“超広域災害”の衝撃』
- 3.28 『時論公論～災害と心のケア』
- 3.29 『視点・論点～東北関東大震災と復興』
- 3.29 『あさイチ～東北関東大震災 どうする計
画停電』
- 3.29 『クローズアップ現代～今、私たちにでき
ること～被災地の外からも人々を支える』
- 3.30 『時論公論～原発危機対策は』
- 3.30 『視点・論点～命を守る防災』
- 3.30 『あさイチ～徹底取材! 放射性物質』
- 3.30 『クローズアップ現代～連鎖する震災ダメ
ージ どうする日本経済』
- 3.31 『時論公論～生活再建支援を』
- 3.31 『視点・論点～災害看護とトリアージ』
- 3.31 『あさイチ～つなぐれ日本 ひろがる支援
の輪』
- 3.31 『クローズアップ現代～“心の危機” 被
災者を救え』

教育テレビ

- 3.11～18『安否放送』
- 3.14～18『生活情報』
- 3.14～17, 21～24『福祉ネットワーク～災害関連情報』
- 3.16～18『避難者名簿』
- 3.18『きらっといきる～災害関連情報』
- 3.19～22『避難者情報』
- 3.20『ろうを生きる 難聴も生きる～震災関連情報』
- 3.21『視点・論点～大震災と原発』
- 3.22『視点・論点～生活不活発病に注意』
- 3.23『視点・論点～地震被災地からの医療報告』
- 3.24『視点・論点～心のケアとPTSD』
- 3.25『きらっといきる～震災関連情報』
- 3.25『視点・論点～スーパー広域災害における被災者支援』
- 3.27『歌でつなごう～被災者のみなさんへ』
- 3.28『福祉ネットワーク～東北関東大震災 被災した障害者は今』
- 3.29『福祉ネットワーク～東北関東大震災 動き出した障害者支援』
- 3.30『福祉ネットワーク～東北関東大震災 認知症 被災したグループホームは今』
- 3.31『福祉ネットワーク～東北関東大震災 今求められている支援』

衛星第1

- 3.12『東北地方太平洋沖地震 生活情報』
- 3.13『日曜討論～東北地方太平洋沖地震 政治の対応を問う』
- 3.13『地震関連生活情報』
- 3.13『NHKスペシャル～緊急報告 東北関東大震災』
- 3.14, 16～18, 21『あさいち～地震関連情報』
- 3.16『緊急報告 福島原発』
- 3.19『ニュース 深読み～東北関東大震災 わたしたちに何ができるのか』
- 3.20『NHKスペシャル～東北関東大震災から10日』
- 3.21～25, 28～31『被災者 いま訴えたいこと』
- 3.21『クローズアップ現代～“命の情報”が入らない』
- 3.22, 25～29, 31『歌でつなごう～被災者のみなさんへ』
- 3.22『アジアクロスロード～東北関東大震災をアジアはどう伝えたか』
- 3.22『クローズアップ現代～被災者に届け 支

援物資』

- 3.22『時論公論～全国で支えよう』
- 3.23『クローズアップ現代～被災地に“希望”をさがす～釜石ドキュメント』
- 3.23『時論公論～食品の出荷制限』
- 3.24『アジアクロスロード～被災地へアジアからメッセージ』
- 3.24『クローズアップ現代～原発事故 広がる波紋』
- 3.24『時論公論～物流ルート確保』
- 3.25『アジアクロスロード～アジアから被災地へ』
- 3.25『首都圏でいま何が～東北関東大震災から2週間』
- 3.25『時論公論～復興に財政出動』
- 3.26『土曜解説～大震災・急がれる被災者の支援は』
- 3.28『視点・論点～放射能と人体への影響』
- 3.29『視点・論点～東北関東大震災と復興』
- 3.30『視点・論点～命を守る防災』
- 3.31『視点・論点～災害看護とトリアージ』

衛星第2

- 3.13『日曜討論～東北地方太平洋沖地震 政治の対応を問う』
- 3.13『NHKスペシャル～緊急報告 東北関東大震災』
- 3.14～18『安否放送』
- 3.14～18『生活情報』
- 3.14～17『福祉ネットワーク～災害関連情報』
- 3.18『きらっといきる～災害関連情報』
- 3.16～18『避難者名簿』
- 3.20『日曜討論～東北関東大震災 いま何が必要か』
- 3.25, 28～29『歌でつなごう～被災者のみなさんへ』
- 3.27『日曜討論～（第1部）福島原発事故 政府の対応を問う,（第2部）東北関東大震災 支援・復興に何が必要か』

BSハイビジョン

- 3.13『日曜討論～東北地方太平洋沖地震 政治の対応を問う』
- 3.13『NHKスペシャル～緊急報告 東北関東大震災』

ラジオ第1

- 3.14～18『ラジオあさいちばん～地震関連情報』

- 3.14～18『ラジオビタミン～地震関連情報』
- 3.14～18, 21～22『ふるさとラジオ～地震関連情報』
- 3.14『つながるラジオ～被災者の健康アドバイス』
- 3.14～18『私も一言！夕方ニュース～地震関連情報』
- 3.14～18『NHKジャーナル～「東北関東大震災」関連』
- 3.14～21『ラジオ深夜便～地震関連情報』
- 3.15『つながるラジオ～原発Q&A』
- 3.16『つながるラジオ～今、私たちに何が出来るか』
- 3.17『つながるラジオ～被災者 衛生面での注意点』
- 3.18『つながるラジオ～被災者のこころのケア』
- 3.19『土曜あさいちばん～地震関連情報』
- 3.19『どよう楽市～被災地への応援メッセージ』
- 3.19『特集番組・被災地へのメッセージ』
- 3.19『かんさい土曜ほっとタイム～関西から被災地へ・震災の経験伝える』
- 3.19『“絆うた”からのメッセージ』
- 3.19～20『地球ラジオ～被災地への応援メッセージ』
- 3.20『日曜あさいちばん～地震関連情報』
- 3.20『日曜討論～東北関東大震災 いま何が必要か』
- 3.20～21, 24『被災地へ届け 絆のうた』
- 3.20『東北関東大震災～いま、あなたを支えた』
- 3.20『浜マガZ～東北関東大震災 今、できること・望むこと』
- 3.21『ラジオあさいちばん～感染症対策・被災地へのメッセージ』
- 3.21～22『ラジオビタミン～被災地への応援メッセージ』
- 3.21『つながるラジオ～体を動かそう！寝たままできる単体操』
- 3.21～25, 28～31
『私も一言！夕方ニュース～東北関東大震災関連』
- 3.22『ラジオあさいちばん～低体温症から身を守るには』
- 3.22『つながるラジオ～地震関連情報』
- 3.22～24『NHKジャーナル～東北関東大震災・被災地は』
- 3.23『ラジオあさいちばん～避難所での健康と生活』
- 3.24『ラジオあさいちばん～子どもの心のケア』
- 3.24～25『ラジオ深夜便～東北関東大震災関連インタビュー』
- 3.25『ラジオあさいちばん～震災後関連疾患をどう防ぐ』
- 3.25『NHKジャーナル～大震災情報・原発と影響は』
- 3.26『土曜あさいちばん～震災とスポーツ』
- 3.27『日曜あさいちばん～震災後関連疾患をどう防ぐ』
- 3.27『日曜討論～（第1部）福島原発事故 政府の対応を問う,（第2部）東北関東大震災 支援・復興に何が必要か』
- 3.28～31『ラジオあさいちばん～避難所での生活を考える』
- 3.28～31『NHKジャーナル～大震災原発は・被災地は』
- ラジオ第2**
- 3.13, 20, 27『聞いて聞かせて～災害関連情報』
- 3.19, 26『中文日本百科～東北関東大震災関連情報』
- 3.19『ハングル日本百科～東北関東大震災～こうして被害はひろがった』
- 3.20, 27『ともに生きる～震災関連特集』
- FM放送**
- 3.11～18『安否放送』
- 3.14～18『ラジオあさいちばん～地震関連情報』
- 3.14～18『ラジオビタミン～地震関連情報』
- 3.14～18『ふるさとラジオ～地震関連情報』
- 3.14『つながるラジオ～被災者の健康アドバイス』
- 3.14～18『私も一言！夕方ニュース～地震関連情報』
- 3.14～15『NHKジャーナル～「東北関東大震災」関連』
- 3.14～21『ラジオ深夜便～地震関連情報』
- 3.15『つながるラジオ～原発Q&A』
- 3.16『つながるラジオ～今、私たちに何が出来るか』
- 3.16～18『避難者名簿』
- 3.17『つながるラジオ～被災者 衛生面での注意点』
- 3.18『つながるラジオ～被災者のこころのケア』
- 3.19～22『避難者情報』
- 3.19『“絆うた”からのメッセージ』